

農産物の残留農薬検査結果

市内産(令和4年11月) 及び 冷凍食品(9月・11月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について基準値を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、健康福祉局食品専門監視班が令和4年11月に収去した市内産農産物及び9月と11月に収去した冷凍食品の検査結果を報告します。

市内産農産物については、11月にだいこんの根3検体及びかぶの根、キャベツ、こまつな、にんじん、ばれいしょ及びレタス各1検体の計9検体について検査を行いました。冷凍食品については、9月には、さやいんげん、とうもろこし及びブロッコリー各2検体、カリフラワー、こまつな、さといも及び菜の花各1検体の計10検体が搬入されました。また、11月にはさやいんげん及びブロッコリー各2検体、アスパラガス、こまつな、さといも、とうもろこし、菜の花及びほうれんそう各1検体の計10検体が搬入され、9月と11月の合計で20検体の検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。市内産農産物では、こまつな1検体から、冷凍食品ではこまつな2検体、さやいんげん、ブロッコリー、ほうれんそう各1検体から、延べ15項目の農薬が検出されましたが、基準値を超えたものはありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 市内産農産物及び冷凍食品の残留農薬検査結果 (令和4年9月・11月)

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物					
かぶの根	1	0			
キャベツ	1	0			
こまつな	1	1	アゾキシストロビン	0.03	15
だいこんの根	3	0			
にんじん	1	0			
ばれいしょ	1	0			
レタス	1	0			
冷凍食品					
アスパラガス	1	0			
カリフラワー	1	0			
こまつな	2	2	クロルフェナピル	0.02	0.5
			シハロトリン	0.03	5
			ジメトモルフ	0.13	20
			メタラキシル及びメフェノキサム	0.02	1
			イミダクロプリド	0.10	20
			ジメトモルフ	0.03	5
			メキシフェノジド	0.04	30
さといも	2	0			
さやいんげん	4	1	アゾキシストロビン	0.01	3
			イミダクロプリド	0.02	3
とうもろこし	3	0			
菜の花	2	0			
ブロッコリー	4	1	クロルフェナピル	0.01	3
ほうれんそう	1	1	アセタミプリド	0.02	3
			アゾキシストロビン	0.01	30
			クロチアニジン	0.02	40
			チアメキサム	0.01	10

表 2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E
BHC(α、β、γ及びδの和)	0.005	○	—	—	○	—	テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
DDT(DDE、DDD、DDTの和) ^{※1}	0.005	○	○	○	○	—	テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	—	テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	—	テフルトリン	0.01	○	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	○	トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	トリチコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	—	○	○	トリフルラリン	0.01	○	—	—	○	○
アルドリン及びディルドリン	0.005	○	—	—	○	○	トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○
イソキサチオン	0.01	—	○	○	○	—	トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	トルフェンピラド	0.01	○	○	○	○	—
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	—	ノバルロン	0.01	○	○	○	○	○
エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	○	パラチオン	0.01	○	○	○	○	○
エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○	○	パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	○
エボキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	ビフェントリン	0.01	○	○	○	○	○
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	○	○	○	○	ピリダベン	0.01	○	○	○	○	○
エンドリン	0.005	○	○	○	○	○	ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	○
オキサミル	0.01	○	○	○	○	○	ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	○
カルバリル	0.01	○	○	○	○	○	ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	○	○	ファモキサドン	0.01	○	○	○	○	—
クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	○	フィプロニル	0.002	○	○	○	○	—
クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	○	フェナリモル	0.01	○	○	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○	○
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	○
クロルプロファミ	0.01	○	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○	○
クロロクシロン	0.01	○	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	○	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○	—
シアノホス	0.01	○	○	○	○	○	フェンプロバトリン	0.01	○	○	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	○	フサライド	0.01	○	○	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	—	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	—	—	フルジオキシソニル	0.01	○	○	○	○	—
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	—	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	○	—	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○	—
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	—	フルバリネート	0.01	○	○	○	○	—
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	—	フルフェノクシロン	0.01	○	○	○	○	—
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	—	フルリドン	0.01	○	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○	○
シラフルオフエン	0.01	○	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	○	プロバホス	0.01	○	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○	○
チアメキサム	0.01	○	—	○	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	○	○	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○	○

表 2(続き) 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E
ヘプタクロル(エポキシを含む)	0.005	○	—	—	○	○	マイクロブタニル	0.01	○	○	○	○	○
ペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○	メタキシル及びメフェキサム	0.01	○	○	○	○	○
ペンコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○	—
ペンシクロン	0.01	○	○	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○	○
ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○	○	メトラクロール	0.01	○	○	○	○	○
ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○	○	リニューロン	0.01	○	○	○	○	○
ボスカリド	0.01	○	○	—	—	—	リンデン(γ-BHC)	0.005	○	○	—	○	○
ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○	○	ルフェスロン	0.01	○	○	○	○	○
マラチオン	0.01	○	○	○	○	—	レナシル	0.01	○	○	○	○	—

農産物の種類 A:こまつな、さやいんげん、菜の花、にんじん、ブロッコリー、ほうれんそう、B:アスパラガス、かぶの根、カリフラワー、キャベツ、レタス C: だいこんの根、D:さといも、ばれいしょ、E:とうもろこし

○:実施、—:実施せず

*1 DDTは、*p,p'*-DDE、*p,p'*-DDD、*o,p'*-DDT及び*p,p'*-DDTの和

【農薬解説】

今回は、複数の農産物から検出された農薬を紹介します。

アゾキシストロビン

メキシアクリレート骨格を有する殺菌剤で、担子菌類(きのこ)から抽出された物質から誘導合成された農薬です。多種類の菌類に対し強い抗菌活性を示し、予防的にも治療的にも使用することができます。適用範囲は水稻、小麦、果樹、野菜、茶、芝など主要作物の多くの重要病害に及んでいます。

イミダクロプリド

ネオニコチノイド系殺虫剤で、高い殺虫活性、浸透移行性、残効性があり、作物に対する薬害はほとんどありませんが、ミツバチやマルハナバチに影響があるため、放飼を行っている周辺では使用を避けるなどの注意が必要な農薬です。

クロルフェナピル

ピロール環を有する殺虫・殺ダニ剤で、野菜、茶、果樹などの主要害虫に殺虫効果があります。チョウ目、アザミウマ目、ダニ目に効果を示し、既存の殺虫剤とは異なるタイプの比較的新しい農薬で、既存の農薬に耐性があるものにも有効です。

ジメトモルフ

ケイ皮酸誘導体の殺菌剤で、トマト、ばれいしょ、きゅうり、たまねぎ他多くの農産物の病害防除剤として使用されています。疫病菌及びべと病菌に効果があり、治療効果もありますが予防効果に優れているのが特徴です。

※参考文献

・社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2021年版

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】